

2010 年度 追手門学院大手前中・高等学校 学校関係者評価・報告書

| 重点課題 | 関係者所見 |
|--|---|
| <p>「大学入試の結果」を出すことを第一義する教育の推進</p> | <p>13年ぶりの国公立大医学部、京大農学部の難関国公立大学の他、現役合格11と進学実績の風穴をあけたことや関同立大合格者が倍増した成果と頑張りに評価できる。</p> <p>全体的に大学入試結果はまだまだ出ていないので、全体が納得するような結果を目指してほしい。</p> |
| <p>「心の教育」の具体的内容の検討と推進 - 読書指導、道徳教育、伝統芸能鑑賞、マナー教育、ボランティア教育、心理カウンセリング、環境教育、人権教育、命の教育、国際教育などを含めた教育を検討</p> | <p>具体的内容の一部は推進しているが、実際生徒にどのような効果があるのかの検証もしてほしい。</p> <p>「心の教育」も中高で取り組み内容が変わります。中学では何を中心するのか、高校では何を中心に据えるのか議論も進めて欲しい。</p> <p>大学進学も保護者としては重要なことであるが、私学に通わせている意義に「心の教育」があります。大手前として特にこの教育の構築にも期待している。</p> |
| <p>募集定員の確保 中学160 高校160 全教員が一致した志願者増を考え、広報活動の強化を実践する</p> | <p>中学の定員確保が出来なかったことは、経済状況や教育施策による中学入試の逆風を考慮しても、反省すべきことである。</p> <p>大手前中高の魅力をもっとアピールして、より一層資料等の見せ方(プレゼンテーション)を考える。</p> <p>個性的な教員、熱心な教員、優秀な教員がたくさんいるので、もっとアピールして、より特色を出すべきだ。</p> |
| <p>「教員評価」の「処遇」連動</p> | <p>このような方向には異論はないが、評価観点を見間違えないようにしないと、評価が一人歩きし、学校を危うくする可能性があることも知ってほしい。</p> <p>教員を評価する際に、いろいろな数値だけでなく、その教員が関わっている生徒達の様子も評価の中にぜひ入れてほしい、特色ある教員が必要である。</p> |
| <p>学年主任・教科主任の自覚意識の向上とレベルアップのための学校訪問などの研修</p> | <p>他校を学ぶことは、教員の刺激や新たな方向への指針となり重要なことだが、大手前中高の良さを「進学・行事・クラブ・情操」の点を消さないようにしてほしい。</p> |
| <p>その他総合意見</p> | <p>学校評価の表現が漠然としている。良くなっているのだから、課題・成果にもっと具体性を持たせて、今後に生かしてほしい。</p> <p>学院と現場の方向性が一致していないところが感じられ残念、保護者としては不安を感じる。保護者は学校の応援団、良き理解者として、子供のために何事にもご協力したいと考えている。</p> |